

前回書きもらったことを述べます。

1. リーズニングについて

リーズニングの基本は、リーズニングしようとしているコンセプトが支持されるコンセプト群が信頼されるというものです。「明日、街に出る」という発言が支持されるのは、発言者が信頼できることです。また、文法的に正しいといった文の構造による支持です。文法が正しくなければ、この文は非文になります。

支持ですが、基本的に連想です。「明日、街に出る」という発言の出所は連想によって判断されます。文法も、動詞「出る」と連想して存在するものです。連想関係が基本です。

ですが、連想だけではリーズニングに足りません。構造が重要になって来ます。発話というのは、誰が何と発話するというように、コマンド形式で表現できる構造を持ったものです。この構造が信頼されるものであり、コンセプトがこの構造に則っていることが重要です。「明日、街に出る」の文法についても同様です。文法が信頼されるものであり、その文法に則って文ができていることが重要になってくるのです。

構造とは格です。格は基本帝にイメージで表現されるものです。なぜかと言いますと、記号では色々な表現があるから、特別な処理機構を必要とするからです。イメージならば唯一の表現になるのです。例えば、

(1) A と B の間に O がある。

(2) O はAとBを遮る。

(1) と (2) は同じことであることは、グラフで三点A, B, Oの関係を表現すると分かります。格表現として、(BE,agent_case,O,between_case,A,and_case,B)と between があります。グラフのコマンド表現になっているのです。

2. NameSpace について

コンセプトを名前で管理すると便利だと申しました。その名前を一元管理するのが、NameSpace です。物理学の公式群とか、演劇のステージの構成とか、オブジェクトに名前を付けて、管理しています。公式ですと定数とか変数とかですね。それらの変数というか、名前を実際に人工知能が体験している空間のオブジェクトを対応していくことが求められます。それが知識の有効利用わけです。そういう機能が抽象化機構となるのです。人工知能の基本機能の一つになります。

おわり

